



ビブリオバトル2026

- 見つけてしまった。あなたに教えた物語。 -

7月6日(月)に、第13回目となる「ビブリオバトル2026」を図書館1階ラーニング・コモンズ内プレゼンテーションスペースにて開催しました。今回は6名の学生に参戦いただき、真名瀬陽平先生司会のもと、初出場のバトラーから経験豊富なバトラーまで個性溢れる発表が続き、会場は大いに盛り上がりました。参加者全員による投票の結果、チャンプ本には加藤奈々さん(看護学科3年)が紹介した『異邦人』(カミュ著、窪田啓作訳、新潮社)が選ばれ、真名瀬先生より賞状と副賞目録(名寄市電子地域通貨 Yoroca 5,000 ポイント)が加藤さんへ授与されました。また、在学4年間、毎年ビブリオバトルに参加いただいた塩田桃世さん(社会福祉学科4年)に館長特別賞が、バトラー全員に奮闘を称える学長賞が贈られました。



参加くださったバトラー及び観戦者の皆様、ありがとうございました！



- 出場バトラー感想戦 -

※掲載許可をいただいた方のもものみとなります

私にとってビブリオバトルは、小学校の時にやったかな、やってないかな？ぐらいの感覚のものでしたので、図書館司書さんの方からお誘いいただいた時は少し不安でしたが、やり終えた今、出ずに後悔しないで良かったと思うくらい、楽しいイベントでした。

普段は中々自主的に本を読む機会がないので、初めてと言っているくらい真面目に本を読み、本番までに3回ほど見返して、付箋までつけてしまいました(笑) 元々思い入れのある本ではありましたが、この機会がなければ発掘できない様々な良いところを発掘でき、とても嬉しかったです。またビブリオバトルの会場で生まれた、新たな人達との交流もとても喜ばしいものでありました。

結果としては1位が取れず、とても悔しかったので、また次年度紹介したい本があれば参加させていただこうと思います。素敵な機会をどうもありがとうございました。(社会福祉学科1年 Nさん)

ビブリオバトルで発表してみて、本の良さや魅力について他の人に伝えるように話すのは思っていたよりも難しいということが分かりました。実際その場に立つと緊張もするので、尚更難しいと思いました。

ただ、自分の好きな本を他の人が興味を持ってくれることや、自分の知らなかった本を知ることができることは素晴らしいと思うので、次回以降も参加したいです。(社会福祉学科1年 Iさん)

ビブリオバトルで意識していることは、自分自身の言葉で、自分自身が見た本の世界を伝えるということです。今回は『異邦人』を紹介しましたが、敢えてストーリー中のサブキャラクターに着眼して本の魅力を伝えました。

本は読み手によって捉え方が違うからこそ、ビブリオバトルはより楽しくなるのではないかと思います。是非、みなさんもビブリオバトルへ参加しませんか？(看護学科3年 Kさん)

大学4年生の最後にビブリオバトルに出られた事はとても良い思い出になりました！大学2年生から3年連続参加してみて、自分の紹介した本に関する意見を貰うことで本に対する考え方を見直すきっかけになったり、皆さんの素敵な発表によって新たな本に出会えたりなど、普段は中々無い経験でとても楽しかったです。

また、楽しい思い出だけでなく、人前で話すのが苦手な私が人前でプレゼンする力が年々向上し、普段の大学生活でもこの経験を活かして行動することが出来ました。皆さんもビブリオバトルにぜひ一度、足を運んでくれると嬉しいです。発表を聴いてくれる方々は必ずリアクションをしてくれるので、安心して思い切って参加してみてください！(社会福祉学科4年 Kさん)

今回のビブリオバトルで紹介いただいた本は、いずれも図書館に所蔵があります。バトラーお薦め本の魅力に、是非触れてみてくださいね！

第16回サイエンスカフェ

『加齢に伴う感覚器の変化 - 高齢者の見え方と手の動きを体験してみよう！』



「年をとると、身体にどのような変化が起きるのだろうか」と考えたことはありますか。人間には、見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わうという五つの感覚があり、これらは加齢に伴って少しずつ変化していきます。こうした加齢による感覚器の変化について、実際に体験しながら学んでいただくため、2026年7月18日(土)に図書館主催のサイエンスカフェ『加齢に伴う感覚器の変化—高齢者の見え方と手の動きを体験してみよう！』を開催しました。

今回は大学祭に合わせた開催となり、看護学科教授の高橋智美先生が講師を務めました。会場は2号館121教室で、申込み期間が短かったにもかかわらず、12名の皆さんにご参加いただきました。講演では人間の五感について、それぞれがどのような役割を持っているのか、また「加齢」と「老化」にはどのような違いがあるのかについて説明がありました。さらに、年齢を重ねることで、五感がどのような理由で、どのように変化するのかについて、分かりやすく解説されました。

その後、参加者の皆さんには、高齢者の感覚器の変化を実際に体験していただきました。手袋を着用した状態でペットボトルの蓋を開けたり、プラスチック製容器に入ったゼリーを開封したりすることで、手の感覚や動きが低下した場合に生じる不自由さを体験しました。普段は何気なく行っている動作でも、感覚や運動機能の変化によって難しくなることを、身をもって感じていただきました。

参加者からは、「よく親が、高齢になった時に『あんたもこの年になったら分かるよ』と、老いの現実を話していた。それが今の私の現実になっている」といった感想も寄せられ、加齢や老いについて改めて考える機会となったことがうかがえました。

今回のサイエンスカフェでは、加齢による感覚器の変化について知識として学ぶだけでなく、実際に体験することで、高齢者が日常生活の中で感じている不自由さや、周囲からの支援について考えるきっかけとなりました。今後も名寄市立大学図書館では、身近な疑問や生活に関わる科学を楽しく学べるサイエンスカフェを企画してまいります。今後とも名寄市立大学図書館をよろしくお願いいたします。



(栄養学科助教 丸山洋介)

推薦図書コーナー

『稲の旋律』旭爪あかね著、新日本出版社

『風車の見える丘』『月光浴』と続く3部作の始まりで、舞台化・映画化もされました。今日注目を集める農業と福祉の連携を見越していたかのように、引きこもりの主人公が農家との交流を通して立ち直っていく温かいストーリーです。手紙のやり取りという構成が没入しやすく一気読みできてしまうのですが、ご自身も引きこもり経験のある著者の紡ぐ言葉には、フィクションを超えた重みもあります。＜ケア＞について学ぶ本学の学生に、一度手に取ってもらいたい書籍です。

(社会保育学科教授 下村一彦)

当館所蔵有【新着図書：913.6/H】

